



生活サポートセンター窓口

Q

市の債権管理と生活困窮者対策

山中 基充 議員



A

債権管理の適正化と連携した支援に努める

- 質問一** 債権回収の現状について
- ア** 本市の体制の現状は。
- イ** 非強制徴収公債権と私債権の管理について。
- ウ** 給食費の収納率の向上と滞納対策は。
- 二** 生活困窮者への対応について。
- 三** 生活困窮者対策の充実と債権管理との連携を。
- 答弁一 ア(市長)** 債権管理連絡調整会議を設置し、適切な処理と管理に取り組んでいる。
- イ** 鶴ヶ島市債権管理マニュアルを作成し、管理に取り組んでいる。
- ウ(教育委員長)** 学校給食への理解と給食費の納入の必要性を保護者にお知らせし、また、督促や強制執行の申立てを行い、公平性や公正性の確保を図っている。
- 二(市長)** 生活サポートセンタ

- 一では、生活困窮者自立相談支援事業を実施している。各種相談や支援に当たっては、ハローワークを含め、連携を密にしている。
- 三** 各所管から最新情報を確認し、対応の統一を図っている。
- ◎**その他の質問**
- 一** 足元からのシティブロモーションについて
- 二** 保護者向け緊急メール連絡網運用の改善について
- 三** 首長、議員の報酬について

A

個に応じた指導を実践し、学習意欲の向上を図る

Q

基礎学力の重要性について

杉田 恭之 議員



- 質問一** 学力向上のための重要事項は。
- 二** 潜在能力の引き出し方は。
- 三** 基礎学力を伸ばす方策は。
- 四** 小学校低学年で身につけるべき基礎学力の補習授業等の成果は。
- 五** 貧困家庭の子どもへの学力補習支援は。

- 答弁一(教育委員長)** 基礎的・基本的な知識・技能の定着、学習意欲の向上、学習習慣の確立、思考力・判断力等の育成が重要であり、わかる授業の実施と家庭との連携による学習の習慣化が柱となる。
- 二** 知的好奇心を掻き立てるような

- 魅力ある授業を行うことと、様々な体験活動が重要である。
- 三** 落ち着いた学習環境を作るほか、加配教員や学習支援員等の活用、個別の補充指導、放課後のびのび算数教室などにより、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。
- 四** 計算が正確に速くできるようになった、計算に自信が持てるようになった、学習意欲が向上したなどである。
- 五(市長)** 生活保護及び生活困窮世帯の中学生を対象に、高校進学を支援し、貧困の連鎖を断ち切ることを目的とした学習支援事業を開始し、個々の習熟度に応じた支援を行っている。

